

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】平成 17 年 7 月 14 日 (2005.7.14)

【公表番号】特表 2001-509908(P2001-509908A)

【公表日】平成 13 年 7 月 24 日 (2001.7.24)

【出願番号】特願平 10-531276

【国際特許分類第 7 版】

G 0 9 C 5/00

G 0 6 F 15/00

【F I】

G 0 9 C 5/00

G 0 6 F 15/00 3 3 0 G

【手続補正書】

【提出日】平成 16 年 11 月 2 日 (2004.11.2)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

手続補正書

平成16年11月 2日

特許庁長官 殿



1. 特許出願の表示

平成10年 特許願 第531276号

2. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

住所または居所 アメリカ合衆国 ミズーリ 63130 セント ルイス
ワン ブルッキングス ドライブ (番地なし)

氏名または名称 ワシントン ユニヴァーシティ

3. 代理人

住所又は居所 東京都中央区日本橋本町2丁目3番1号
茶の木屋ビル 電話03-5255-4400

氏名又は名称 (7782) 弁理士 鈴木 弘男



4. 補正対象書類名

明細書

5. 補正対象項目名

明細書、特許請求の範囲

6. 補正の内容

(1) 請求の範囲を別紙のとおり補正する。

(2) 明細書第2頁第28行目～第29行目の「記録済磁気媒体は、信頼できる識別すなわちフィンガープリントを必要とする種々の対象物のうちの1つに過ぎない。」を、「記録済磁気媒体は、信頼できる身分証明書に相当するものすなわちフィンガープリント (以下本明細書においては、このような固有性を有する識別要素をフィンガープリントという普通名詞として表記する) を必要とする種々の対象物のうちの1つに過ぎない。」と補正する。

(3) 明細書第13頁第23行目～第26行目の「磁気ストライプの多くの部分か



らの残留ノイズはまた、多くの残留ノイズを加算し、減算しまた平均化することによりリニアに組み合わせられて、磁気媒体のいかなる単一部分の残留ノイズも表さないハイブリッドフィンガープリントが発生する。」を、「磁気ストライプの多くの部分からの残留ノイズはまた、それら複数の残留ノイズを加算、減算、あるいは平均化のような1次元の演算を行うことができ、その結果、ハイブリッドフィンガープリントを生成し、そのフィンガープリントは磁気媒体の1つの部分からの残留ノイズを表していないようになる。」と補正する。

(4) 明細書第20頁第12行目～第14行目の「磁気媒体の特定部分の残留ノイズが「単一回」測定で求められたものならば、この結果には、電子ノイズと、粒子の方向に影響を与える残留ノイズとの両者が含まれる。」を、「磁気媒体の特定部分の残留ノイズが「単一回」測定で求められたものならば、この結果には、電子ノイズと、粒子の方向による残留ノイズとの両者が含まれる。」と補正する。

(5) 明細書第20頁第18行目～第21行目の「しかしながら、2組のデータ、すなわち単一回測定データと平均化測定データとが比較され、これにより単一回読み出しが商業的用途に容易に使用できることが示される場合には、高い相関係数が観察された。」を、「しかしながら、2組のデータ、すなわち単一回測定データと平均化測定データとが比較されたとき、高い相関係数が観察されており、これにより単一回読み出しが商業的用途に容易に使用できることが示されている。」と補正する。

請求の範囲

1. 少なくともその一部に磁気媒体を有する対象物において、後にその対象物の同一性の確認を容易に行うために前記対象物にフィンガープリント（そのものの固有性を示す識別要素を以下フィンガープリントという）を付すための方法であって、

前記磁気媒体の複数の小部分において、それぞれが独自のフィンガープリントを決定することができる部分を少なくとも1つは含み、

前記磁気媒体の小部分の全体部分から1つの残留ノイズを決定する段階と、前記残留ノイズは多数の唯一性を有するフィンガープリントからなっており、

前記残留ノイズを記録する段階と
からなる方法。

2. 前記記録する段階が前記残留ノイズをデータベースに記録する段階を含む請求項1に記載の方法。

3. 少なくともその一部に磁気媒体を有する対象物において、後にその対象物の同一性の確認を容易に行うために前記対象物にフィンガープリント（そのものの固有性を示す識別要素を以下フィンガープリントという）を付すための装置であって、

前記磁気媒体はその複数の小部分において、それぞれが独自のフィンガープリントを決定することができる部分を少なくとも1つは含み、

前記磁気媒体の小部分の全体部分から1つの残留ノイズを決定するための読み出し手段と、前記残留ノイズは多数の唯一性を有するフィンガープリントからなっており、

前記残留ノイズを記録するための記録手段と
を有する装置。

4. 少なくともその一部に磁気媒体を有する対象物において、後にその対象物の認証を行うための方法であって、

前記磁気媒体の複数の小部分を選択する段階と、前記選択は2つ以上の異なった前記小部分から選択されており、

前記選択された小部分から残留ノイズのデータを得る段階と、

前記選択された小部分から得られた残留ノイズのデータとそれ以前に決定されているデータとを比較し、それによって前記対象物が真正であるかどうかを決定する段階と

からなる方法。

5. 前記選択する段階が、少なくとも2つの重なりあった部分を有する前記小部分から選択する請求項4に記載の方法。

6. 前記選択する段階において、少なくとも2つの異なった前記小部分が読み出しの長さにおいて異なっている請求項4に記載の方法。

7. 前記複数の選択された小部分から得られた残留ノイズのデータを1次元の演算として組合せる段階と、前記選択された小部分から以前に決定された残留ノイズのデータを1次元の演算として組合せる段階とを有し、前記比較する段階が1次元の演算として組み合わせられた組合せを比較し、それによって前記対象物が真正かどうかを決定する段階を含む請求項4に記載の方法。

8. 物理的に離れている対象物と中央装置とをデータリンクによりデータを伝送して中央装置の位置から物理的に離れている対象物の認証を与える方法であって、

物理的に離れている対象物は磁気媒体を有しており、中央装置が

前記対象物の磁気媒体の少なくとも小部分の1つを選択するのに十分なデータをデータリンクによって送る段階と、

前記選択された小部分から得られた残留ノイズを受け取る段階と、

中央装置において、前記受け取った残留ノイズをそれ以前に決定している前記小部分のデータとを比較して、それによって物理的に離れた対象物が真正であるかどうかを決定する段階と

からなる方法。

9. 前記データを送る段階は、前記対象物の磁気媒体の複数の小部分を選択するのに十分なデータを送る段階を含み、

前記受け取る段階は、選択された複数の小部分から得られる残留ノイズを受け取る段階を含み、

比較する段階は、受け取った残留ノイズのデータをそれ以前に決定されている残留ノイズのデータと比較する段階を含む

請求項8に記載の方法。

10. 物理的に離れている場所にある本体によって1つの対象物に認証を与えるための装置であって、

前記対象物は少なくとも一部に磁気媒体を含み、
前記磁気媒体の複数の小部分の選択を行った受信データを受け取るための入力手段と、
前記磁気媒体の複数の前記選択された小部分からそれぞれ得られる残留ノイズを決定す
るための読み出し手段と、
前記残留ノイズを表示しているデータを提供するように構成されている出力手段と、
からなる装置。